

市民が祝う50年！尼崎市民団、アウクスブルク市を訪問

今回、アウクスブルク市を訪問した尼崎市民団は、両市50年の交流の中で生まれた尼崎市国際交流協会が企画したものです。同協会は、昭和54年に来尼したアウクスブルク市長を歓迎する市民交流会がきっかけとなって設立された市民団体です。これまでも、周年記念の年に、友好交流と相互理解を深めるため、姉妹・友好都市（アウクスブルク市、鞍山市）を訪問してきました。

同協会は、姉妹都市提携50周年を記念して、アウクスブルク市を訪問する市民団を組織し、平成21年7月6日から12日にかけて、26名の団員がアウクスブルク市やドイツの他都市等を訪問しました。（自費参加）

参加者のなかには、姉妹都市提携50周年を記念して、尼崎青年会議所が主催した5月のイベント（姉妹都市に関するクイズ大会）で見事優勝し、アウクスブルク旅行を手にした中学生も含まれていました。

市民団一行は、7月6日夜にアウクスブルク市に到着しました。翌7日は、アウクスブルク市職員の案内で市内の名所（ルドルフ・ディーゼル記念石庭苑や旧市街等）を観光しました。



姉妹都市提携のきっかけとなったルドルフ・ディーゼル記念石庭苑にて

午後からはアウクスブルク市庁舎の「侯爵の間」でクルト・グリーブル市長を表敬訪問しました。温かく迎えてくださったグリーブル市長を囲んで記念撮影を行い、記念品を交換しました。その後、市庁舎内の「黄金の間」や姉妹都市紹介コーナーを見学しました。



市庁舎でグリーブル市長とともに

夜は、アウクスブルク独日協会の方々が生ビールホール「ツム・オクセン」で歓迎会を催してくれました。ドイツビールとバイエルン料理を堪能しながらアウクスブルク市民の皆さんと交流を深め、楽しい夕べとなりました。



ドイツビールで乾杯！

市民団一行は、翌日、アウクスブルクを発ち、ベルリンやドレスデン、プラハなどを見学した後、帰国の途に着きました。